

日伯新聞

早く歸るが
上分別

も申開きが相立まい。それとも
それは皆ウソだと云ひ切るだけ
の勇気があるか。吾人はイケ^ハ存
在ではあるが昔からウソと坊主
の髪とはいはないことにしてる
だしか一ヶ月程前と記憶する
吾人と中島總領事と手打仲直り
をしてはとの話があつた。當時
をどうかしたとか云ふのなら、
同じ悪いことでもまだ始末はよ
いが、常習的に他人の女房を獲
歩くと云ふに至つては一般
社会の脅威であり、一日もこれ
を社会的に有りせしむることは
出来ない。海興が直ちに彼を減
つたのは素より當然である。由
來植民地は自由と放縱とはき
違へられてるところから勤もす
れば道徳律が低下し、人倫の常
道が亂れ際である。從つて指
導階級に在る者は、居深く此
點に留意し、嚴として自ら守る
所がなければならぬ。マオトコ
云ふのが、主なる邦人の希望で
あつた。然し今はモウそれすら
分に都合のよい者なら何でもヒ
キにして近づけ、これで金を貰
與れてやると云ふのでは全然社
会の秩序が保たれない。

然るに不幸にしてサンバウロ
總領事館は、どういふものか吾
人の指摘するやうにしか行動せ
ぬ借金を以てこれを拂つて居ら
うとさへした。これには流石に其
筋でも呆れたと見え、何處で
あるに拘らず、昨年以來秘密
裏に地方醫局として莫大な補助
金を支給して居た。更に甚
くは其醫者が海興に少から
ない。レデストロの森通醫者が
瘦せて枯れても海興の使用人
であるに拘らず、昨年以來
所やらから「貴官は彼と如何な
る惡縁あつて左様なことをい
ふか」と一喝されて沙汰止みにな
つた。其他國勢調査の豫算の一
部がパカブンの飼料に化けた
ことも今ではサンバウロで誰知
らぬ者もいる事実である。

吾人は此の上中島總領事のこ
とを筆にするに忍びない。實は
平常の心得もよくないが運も悪
い。いまは只一日も早く引揚げ
ることである。一日永くおれば
永くをるほど怪我が大きくなる
たとへ知らざるにもせよマオト
コ医者が官邸に泊込んだりした
れに金戻れたりしたのではと

レデストロ植民地の邦醫事件

は近頃以て奇怪至極の沙汰であ
る。金を使ひ込んだとか看護婦

をどうかしたとか云ふのなら、
同じ悪いことでもまだ始末はよ
いが、常習的に他人の女房を獲
歩くと云ふに至つては一般
社会の脅威であり、一日もこれ
を社会的に有りせしむることは
出来ない。海興が直ちに彼を減
つたのは素より當然である。由
來植民地は自由と放縱とはき
違へられてるところから勤もす
れば道徳律が低下し、人倫の常
道が乱れ際である。從つて指
導階級に在る者は、居深く此
點に留意し、嚴として自ら守る
所がなければならぬ。マオトコ
云ふのが、主なる邦人の希望で
あつた。然し今はモウそれすら
分に都合のよい者なら何でもヒ
キにして近づけ、これで金を貰
與れてやると云ふのでは全然社
会の秩序が保たれない。

然るに不幸にしてサンバウロ

總領事館は、どういふものか吾

人の指摘するやうにしか行動せ
ぬ借金を以てこれを拂つて居ら
うとさへした。これには流石に其
筋でも呆れたと見え、何處で
あるに拘らず、昨年以來秘密
裏に地方醫局として莫大な補助
金を支給して居た。更に甚
くは其醫者が海興に少から
ない。レデストロの森通醫者が
瘦せて枯れても海興の使用人
であるに拘らず、昨年以來
所やらから「貴官は彼と如何な
る惡縁あつて左様なことをい
ふか」と一喝されて沙汰止みにな
つた。其他國勢調査の豫算の一
部がパカブンの飼料に化けた
ことも今ではサンバウロで誰知
らぬ者もいる事実である。

吾人は此の上中島總領事のこ
とを筆にするに忍びない。實は
平常の心得もよくないが運も悪
い。いまは只一日も早く引揚げ
ることである。一日永くおれば
永くをるほど怪我が大きくなる
たとへ知らざるにもせよマオト
コ医者が官邸に泊込んだりした
れに金戻れたりしたのではと

Caixa No. 375
Phone. 2-3926

アーヴィング・ソーラー
外國銀行
金三十ミル
十四西及八面二百八百レーパス

一四西及八面二百八百レーパス

寄稿

奥地農業者も郊外野菜作りも等しく經營法の革新に愈々眞劍の努力をして來た。多角經營法と云ひ集約と云ふ或は製產加工と一步時代を進め、百人以上が万人、千人以上が千人などして現狀から切抜けて安定の礎を固め様かと苦心して居る。此時唯一の救済策であるかの如くに組合組織を提倡して居るものもあるが、聖市郊外の野菜作りの組合も邦人同胞のみで組織するのだとたら、資金の融通、肥料農品供給品の共同購入等も購買組合の機能は發揮するかも知れぬ。

それにしても千二百家族にも事業の大小の差は甚だしく、資力の程度にも格段の差異ある上に元来野菜作の現在は殆んど凡べてが地農で、財力は頗る貧弱な集團が多い。

生産費の節約は購買組合で發揮しえるだらう。然し現市郊外の農業者の大きな悩みは生産品の市場統制問題である。

郊外農業者は奥地農業者に比して、購買品は色々と安價に有利な條件で買入れる便宜を多く有して居る。市場統制をしてこそ始めて安定が得らるゝのであり、組合の真價がある。

市場統制の爲めには市場關係の全ての生産者を網羅する必要がある。内外人の大同團結でなければならぬ。日本人だけの組合では威力がない。假に日本人だけの組合を組織しても一年を通じて外人栽培者を壓迫する丈に有利な條件を持つて居らぬ。

量に於ても數に於てもまだ絶對努力を保持して居らぬ。勿論或る時季特種の品は日本人絶対と云ふ例外はあるが、それは凡ての場合凡ての生産品に於てでない。

個人シカレiroは小規模で伸縮自在に地盤的にも生産費に於てもズット有利な條件を占めて居る。此のシカレiroを継むる事は事實上不可能である。此等を除外しては小販市場で脅威を感じ、其集積する數量も決して輕々に見積ることは出來ぬ。即ち共同の利益の配分による。即ち共同の利益の配分と利得補償をせねばならぬ。

例へばレボリヨの市價調節を計る爲めには生産量を制限せねば

次は栽培者との組合の問題である。市價調節による共通計算による。其費用の分担と内人打つての価調節を進める。だらうかある。次ぎは栽培者との特種権利と業定を主張し保建つて居るとの的の不自然なも現実不可能である。これが望みは、人気及び勝ちである。これも市場の値段で現れる。これは市場組織に不合理組織である。

者の実状を見れば、日本人はシヨウカードなる業權擁護の爲めに、ひび需給關係で相互通用はきつと云ふよりも、何處かの農業市郊外の農業者たる事が出来るか。これが問題だ。能とすれば生産量が一丸となつて、引きづられて居る丈の根柢を抜かなければ、茲に大きな事が出来ない。

に途は外にあり、工の必要は等を感じつゝある。時代に入つるゝであらうとする、と資本はそれとし、トレがない、トレが進むに至る所で、年々ミックサード映画は大阪で開催され、相當の人材は、諸工場、一腸、マントイガーライブアリーナで、而して小さい工場で、設置されて来る。漁業が變つて來立派な農業者へを持つたものである。而して小さく安定感があるまいから、

る列車の車輪（終）
と行過ぎるのよ
或は最後尾の空
とそれを駆落す
る幾十里。
詞のタイトル
の、遠くに見
様に童話的な
紙を宛然廻転
撮るのは極めて
うにして静かに
であるが、初め
つたようになら
の胸踊りを望む
れと知らぬ間
の、若しくは四時
軸の際、場面の
安全で、そして
車が走つて行く
が出来る。
十六駒（十）
小さく／＼なま
行く列車の真答（十）
・駒十駒十駒
ル・シグナル等
は後ろから動く
て静かに上る。
の字。 溶暗

Pharmacia Santa Maria
de José Fernandes | Pharmacia Popular
DE HOEPPNER & SILVEIRA | Y. KINJO
CIRURGIO DENTISTA
Av. Condado São Joaquim, 26

好次第
てます
方入用
六才ま
山戸城
サン・コジ
二六・ジン
正月の
説は背
野以上
仕立地精撰
します

Casas Gonçalves e Luso Brasileira
Gabriel Gonçalves & Cia.



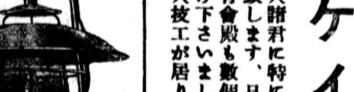
Ao Regulador Fox
Rua Quintino Bocayuba, 11

Vera Fischenh
Rua Cantídio, 103
(Proximo R. I.)
Phone. 4-9000

硫酸
針金、電線
業用品一
タ
千八三
來當店
日本
人教育
價人
買上
日本上

高海拔六百
拂法年賦拂
割賣却す
ソニに適する
スントに適する
珈琲成板三十斤
高海拔六百
拂法年賦拂
割賣却す
ソニに適する
スントに適する
珈琲成板三十斤
は波邊幸雄宛
ネスチナ在住
Engenheiro Dr. Getúlio Vargas

FUNDADA EM 1914
Rua General Carneiro, No. 35-53-55
Caixa Postal, 388 — São Paulo



株式会社
人請君に特に安心
販賣します。日本
貿易會社も數個
受け下さいましきか
人技工が居り姓
ケイ

銅
eng School
申込まれ度し
他はサンタ・
未開拓地及び
三十米空健健康
萬本牧種多し
他のアラン

アンラカ便單極至のすらいブンボで製スンラフ
F. Ambrosio & Cia.
Rua José Bonifácio, 30
Phone 2-1298 - Cama, 752
São Paulo

写真並 **アダム** **Garage Congresso**
Teleph. 2-0081 **CASA DAS SEMEDE**
CARLOS CORRADINI

RUA S. CAETANO, 42 - SÃO PAULO

種子は州農務
省绝对確實な
硫酸銅、硫黃、
種輸入のカタ
自動車、
同胞連轉
ノージ。コ
ノサ・ジョ
電話一
機

ア及び伊太利麻、玉葱、コ
澤山到着致し
タログ申越次第
は
特手の居
コングレ
ンメン・デ
一〇〇。
一切は
當店の
限ります

コルザ、英
しました。
トの證明
ます。
印噴霧
第准呈

總督府では彼らの教化に力を注ぎ宗教々育、學校教育に色々工夫してゐるが、中々天來の野性は三十年や五十年では直りうるものない。四國土佐の人で蠻人布教のために入山した僧侶がゐた。その教化は功を奏し、七年間も彼らと生活を共にしてゐた。同僧は一時内地へ歸ることになり、翌朝出發する前の未明に、彼らは僧の首を切つた。それは斯く夜半彼らは僧長を囲んで車座に立ち、何事かを協議した。僧が第一に警戒したものである。そして先ごろの様な騒動の時には、娘姫は後方で食事係りつまり兵站部員となる。豊前らが内地人の男を好むのは事實で、今から十數年前には、豊前は、豊人を歸順させるために

（＊）臺灣の蠶人といふても、その種族は、パイワン、サイセット、ズンミの七つに別れ、南洋の土人と同様マレイ系である。従つてその容貌なども日本人そつくりなのがあり、女なども眉目の秀でた、内地人の目から見てもアツバレな美女がある。そこで蠶人等は、自分らは日本人と同一種族だといふ誇りを持ち、彼らは自分らよりも人や苦力などには寧ろ敵意をもつた。あれにも無智な蠶人の頭はこの程度のものである。それ以来先頃の騒動は十年目で

臺灣蠻人物語【上】

臺灣の蠻人は例の佐久間鬼總督の討伐後大体に於て全く歸順して了つてゐたものであるが、それでも彼らの赤褐色の皮膚の下には本來の兇暴性がひそんでゐるに至つたものと思はれる。この暴動の理由、原因として傳へられるものは色々あり未だ的確には分らないが、彼らが蠻人であること即ち蠻人としての特徴が先ごろの暴動の一因であつなかつたが、この寺の事の起りは、佐久間總督の理營終了後六年を経た大正九年に矢張り先ごろと同様北蟹の騒動が起つた事がある。それ程ひどい暴動振りでは

と相手の胸をつくが、相手の頭をなでる事は非常な侮辱としてもつとも忌み嫌ふ。それは「こいつは良い首だ」と首斬り鑑定の意味になるからで内地人が「可愛い子！」などとウツカリ彼らの子供の頭でも撫でようものなら大變な事になる。

* * *

総督府では理ばん事業は完成したなどといつてゐるが、彼らに何故人を殺してはいけないかといふ事が長い間の習慣で今で完全にわかつてゐないらしい何しろ皆は首を多くさへ取れば勇士であり英雄としてあが

に誇らしげに提げて凱歌を豪唱しながら歸つてくる。そして自社の近くまで來ると銃撃を放つて合図する。娘女子らは一せいに出でこれを迎へるが、福はその首を歎美する家の持つて行き、先づ斬首者の妻又或は母妹の手に渡してから白の上に飾つたりする。そこで先づ祝ひの小宴が開かれる。ところが若し敗戦とか團員の人でも首をとられた時などは、一同深夜こつそり歸社し、着衣を土に埋めて裸體になり人知れず我家に入るといふしよげ方で、ばん全體の歎きとなる。

兄弟、親戚等が常に押しかけて来て飲んだり食つたりする事が多い。これは彼ら一族の誇りなものだから、ばん姉を妻にしたくために却つて入費がかゝるといふ話もある。

博文館發行の
昭和六年度の日記帳
中形上綴送料共九〇〇
小形上綴送料共五〇〇
懷中日記皮表紙共七五〇
子 菓 防迫菓子店
遠藤商店
Caino, 2878 - S.Paul
聖市カンセイ一ロ
フルタード街五番
各種飲料水洋菓子
美味な和洋菓子
バール

洋服の御注文は是非當店え
親切迅寧園部洋服店
ノロエステ線ビリグキ町 實二九三
各船舶に食糧賣込業
ヤマカ合資商會
大東商船
日本郵船
汽船會社社
専用道
函館、小樽、函館、
テントス港マムアン・アーチンソ開
電話一九七三

HOTEL PAZ
 Praça José Bonifácio, 33
SANTOS

ホテル平和
ペウリズク線マリ、アズ
 ルアーナンスルイス

成 功 館
サンクス市 ラルゴ・セラフ・ダ・セタノゴニ
電話 11000

大坂商店會社仲文
太坂商店會社東大阪所

大坂商店會社仲文
太坂商店會社東大阪所

<p>Hotel S. Paulo Rua General Osório, 21 TEL. 390 <u>Ribeirão Preto</u></p>	<p>NAKAI & FILHOS Caixa Postal, 486 PHONE 101 <u>CATANDUVA</u></p>
<p>御旅館 主 島崎 電 話 三九〇〇 番號 二〇一 サンパウロ</p>	<p>播種機 農具一式 カタンヅバ市 中井工場</p>

オーラー・ボ・ビラツク街(三〇)	雜貨商 武田商店	カーボス・アルヴエス樹(五〇)	郵函 二〇三	田中鐵工所	郵函 二〇三	ビンテ・ウン・デ・アブリール街
セツテ・デ・セツテンプロ街	カーヴ東山 森部一衛	オーラー・ボ・ビラツク街(公園前)	郵函 二〇三	ホテル 三井	郵函 二〇三	ロドリゲス・アルヴエス街(五五)
セツテ・デ・セツテンプロ街	カーヴ東山 森部一衛	オーラー・ボ・ビラツク街(公園前)	郵函 二〇三	ホテル 三井	郵函 二〇三	ロドリゲス・アルヴエス街(五五)

郵函 二〇三	ルイス・ガマ街五一	ベンソン・プログレツソ	郵函 二〇三	郵函 二〇三
郵函 二〇三	セツテ・デ・セツテンブロ街	卸菓子製造 福田屋	郵函 二〇三	郵函 二〇三
郵函 二〇三	セツテ・デ・セツテンブロ街	農田共營 マキナ・リネンセ	郵函 二〇三	郵函 二〇三
郵函 二〇三	福島	山中歯科醫院	郵函 二〇三	郵函 二〇三

ルイス・ガーマ街三三	和洋御料理 ひさご亭	
郵函 二〇三	セツテ・デ・セツテンプロ街七二	リンス案内
セツテ・デ・セツテンプロ街五五	卸小賣貨 カーザ ソールナツセンテ	
郵函 二〇三		

臺灣蠻人物語

2 FILHOS
Postal, 486
TE 101
NDUVA

A decorative vertical border on the left side of the page. At the top, there is a small, rectangular illustration of a person's head and shoulders, wearing a traditional Chinese headdress and clothing. The rest of the border is filled with a repeating pattern of stylized, horizontal, wavy lines.

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Ano XVI

São Paulo — Quinta-feira, 18 de Dezembro de 1930

Num. 707

NIPPAK SHIMBUN

Propriedade e direção de:
SACK MIURA

Redactor da pagina brasileira José Solé
Redação, Administração e Oficinas
Rua da Liberdade, 146
Caixa Postal, 375
Telephone, 2-3926
Endereço Telegráfico "NIPPAK"
SÃO PAULO - BRASIL

ASSIGNATURAS

Para o Brasil:
Por anno 300000
Por semestre 160000
Número avulso \$300
Para o Exterior:
Por anno 600000

ANUNCIOS

Temos à disposição dos interessados
uma tabela completa de preços para an-
núncios nesta folha. Telephone 2-3926

A imigração
para o Brasil não foi
suspenso, e sim regu-
larizada, devido as con-
dições do trabalhador
nacional.

O sr. Lindolpho Collor, ministro
do Trabalho, do Governo Provi-
sorio, entrevistado pelos jornaes
sobre a imigração, disse:

— Não se trata de suspender a
corrente migratoria e sim de
regularizá-la de acordo com as
condições prementes do trabalhador
brasileiro, para que este não
fique prejudicado com as vantagens
até agora auferidas pelos
outros trabalhadores de diversos
paizes. Teremos de reivindicar
para o brasileiro as regalias go-
sadas pelos estrangeiros, que se
dispõem a vir cultivar as nossas
terras. Assim o decreto no seu
arcabouço cuida da seleção das
correntes migratorias e naturalmente
arma o governo de
apparelhamento mais cuidadoso
que o autoriza a conduzir, com
mais efficiencia para o paiz, as
referidas correntes. O governo
não suspendeu propriamente o
movimento migratorio, limitou
simplesmente esse movimento.

Si um Estado, em determinado
municipio, solicitar oficialmente
determinado numero de trabal-
hadores estrangeiros, de tal ou qual
nacionalidade, consultar-se-á, pre-
liminarmente, da conveniencia de
dirigir para alli trabalhadores
brasileiros. Sendo isso recusado
com razões ponderaveis, então,
conceder-se-á licença para a vin-
da dos imigrantes preferidos.

Por este meio fica regularizada
e não suspensa a imigração
de trabalhadores estrangeiros pa-
ra o Brasil.

Aos que despacham café

O sr. director geral da Secre-
taria da Fazenda comunicou
aos srs. exactores que, a partir
de 1 de Janeiro de 1931, os im-
postos e taxas devidos sobre o
café despachado por estrada de
ferro para o Rio de Janeiro, se-
rão cobrados no destino, pela
Agencia do Instituto de Café, in-
dependendo, portanto, taes des-
pachos, do prévio pagamento de
quaesquer tributos paulistas.

Fica entendido que os despa-
chos para estações da Estrada
de Ferro Central do Brasil, situa-
das em território fluminense ou
mineiro, continuam sujeitos ao
regime anterior.

Notícias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN)

A População Japoneza

TOKIO — Segundo as úl-
timas estatísticas, a popula-
ção do Japão elevava-se
em Outubro do corrente
ano, a 64.440.000 habitan-
tes, cifra esta que accusa
um aumento de 4.017.000
habitantes no ultimo quin-
quenio.

A densidade da popula-
ção é, actualmente, de 169
habitantes por kilometro.

Nesta estatística entende-
se somente o Japão, não
entrando neste censo os
habitantes das ilhas e
possessões.

Louças, Artigos Japonezes e
Nacionais
K. NISHITANI
IMPORTADOR E
EXPORTADOR
R. Conceição, 88
End. Teleg. NISHITANI
Caixa do Correio, 1134
RIO DE JANEIRO

O Oriente e o turismo

Segundo informou o sr.
Robert Dollar, velho chefe
da Dollar Steamship Lines
á United Press, as empresas
de transporte, as organizações
turísticas, e os centros oficiais estão
ordenando os seus esforços
no sentido de promover um
forte movimento de turismo
atravez do Pacifico para o
Oriente.

Os turistas americanos,
diz o velho Dollar, dirigem-
se por centenas de milhares
annualmente, á Europa. Co-
mo armador dos navios que
fazem a rota do Pacifico,
estou altamente interessado
em auxiliar qualquer tentativa
tendente ao fomento do
turismo no Oriente. Ouvi
falar muito ácerca da cha-
mada "Era do Pacifico", e
creio que os americanos
devem estar interessados
em conhecer os logares onde
essa "éra" nasceu e
teve a sua origem.

O capitão Dollar, que tem
86 annos e é o decano dos
armadores americanos, pensa
que o primeiro passo para o
inicio do turismo em direcção ao
Oriente é o estabelecimento de hoteis
de primeira ordem nos portos
orientaes, bem como um "bureau"
de turismo, onde possam os viajantes
encontrar toda a commodi-
dade e quaesquer informa-
ções.

DR. S. TAKAOKA
MEDICO-OPERADOR
Rua Fagundes, 8
Tel. 7-4683

A MAIOR CIDADE DO MUNDO

TOKIO — (U. P.) — A ma-
ior cidade do mundo en-
contra-se no Japão. Este
título de "maior cidade" do
mundo, que não deixará de
produzir inveja a mais de
um Estado americano, corresponde a cidade de
Gran-Kioto.

Gran-Kioto não é a ci-
dade do mundo que possue
maior população, mas é a
que tem uma maior exten-
são, pois os seus 915.474
habitantes dispõem de uma
superficie que, com os su-
burbrios, não é inferior a
252 kilometros quadrados.

O governador da nova
cidade de Gran-Kioto, Fukuda,
já esteve em Tokio com o fim de se entrevistar
com o ministro do Interior,
para solicitar a incorpora-
ção territorial da cidade,
o que já teve lugar.

A chegada do "Santos Maru"

Os passageiros de destaque
Um óbito — Varias notícias
do Japão

Procedente dos portos do Ex-
tremo Oriente, com escalas por
Shanghai, Hong-Kong, Singapura,
Colombo, Durban e Cape-Town,
ancorou em nosso porto, a semana
passada, o paquete japonês
"Santos Maru", da frota da Osaka
Shosen Kaisha, tendo gasto nessa
viagem cincuenta e dous dias,
dentre os quaes quatro de bor-
rasca nos mares da Africa do Sul.

Depois de convenientemente
visitado pelas autoridades mariti-
mas, especialmente pela Saude
do Porto, que tem um grande
cuidado com os navios japoneses
para evitar o desembarque de
trachomatos, o "Santos Maru"
atracou, dando desembarque aos
seus passageiros.

No trajecto de Kobe ao Rio de
Janeiro, faleceu a bordo, victimado
por molestia contagiosa, o
passageiro de terceira classe Kamo
Makusuke, japonês de 43 annos,
e que se destinava á lavoura
do interior de São Paulo.

Além de muitos imigrantes
que se destinam ao Brasil e á
Argentina, conduziu o navio niponico
varios passageiros de pri-
meira classe para a capital do
Rio, entre os quaes os srs. Yuji
Fujita e Makao Schimura, e outros
passageiros para os portos

Interrogado sobre o ultimo ter-
remoto que abalou o Japão disse

TYPOGRAPHIA "NIPPAK"

Executa com perfeição qualquer serviço typographic
tanto em japonês como brasileiro

RUA DA LIBERDADE, 146

DESOCUPADOS

A lavora é a unica solução
para os sem trabalho

A onda dos desocupados, diz um telegramma recente,
amaca submergir a Alemanha: em 15 dias houve um ac-
rescimo de 210.000. O total dos sem trabalho sobe, pois, a
3.972.000 no ex Imperio de Guilherme II.

Nos Estados Unidos, o sr. Hoover protesta contra o au-
gmento feito pelo Congresso nas verbas destinadas a soc-
correr os desocupados. E um telegramma, enviado de Ge-
nebra aos jornaes europeus, diz que, segundo o "Bureaux
International du Travail", ha neste momento quinze milhões
de operarios sem trabalho, em todo o mundo.

E' grave, portanto, a situação que se desenha mais te-
nubrosa nos paizes de produção industrial.

A crise mineira, na Inglaterra, por exemplo, é de difi-
cilíma solução. Os trabalhadores em minas não admitem a
hypothese de empregar a sua actividade nouros misteres.

Entretanto, pelas estatísticas que devem merecer fé, a
soma de trabalho no universo é fraca em proporção a que
poderia ser: prediz um jornal francez um futuro em que os
homens, atingindo um numero colossal sobre a terra, não
encontrarão os meios necessarios á sua nutrição, por falta
de productos de alimentação.

O grito em favor da producção, logo que a guerra ter-
minou, despertou as energias em todos os paizes, transformando
muitos delles em centros industriaes, embora sem a
posse indispensavel da materia prima com que os industriaes
precisavam trabalhar. E assim chegou-se á superprodu-
ção, outra modalidade das crises economicas.

Perdeu-se, por completo, o controle sobre o trabalho, e
os 15 milhões de chomeurs são disto uma prova.

Mas a França conservou um estado de equilibrio, que
honra os seus estadistas e o seu povo: é que na França a
riqueza principal assenta sobre a producção da terra. Lá
não existem latifundiários inexplorados, á espera da valorização
da propriedade. O solo está dividido por pequenos proprietários,
que o cultivam com carinho, que não se deixam atrair pelas bellezas das cidades, que constituem uma aristocra-
cia agricola, passando as terras de pais a filhos, atravessando
os séculos. Lá, a economia é uma virtude de toda a gente: não se gasta, nos annos bons, a renda que aumentou, por-
que é possível que venham, depois, os annos de innundações
ou de sol ardente, que afoguem as sementes, ou matem as
germinações.

Haverá solo mais fecundo que o brasileiro?

Prestemos atenção ás crises industriaes, que se abrem
entre povos, tidos e havidos como os melhores organizados
do trabalho nacional. E imitemos a França, que não
abandona a cultura dos seus campos.

E' na terra que o Brasil firmará a sua grandeza econo-
mica. Aproveitemos o momento, em que se esboça uma
crise, para começar a resolver o problema do fomento agri-
cola; estradas de ferro ou de rodagem, que cortem o interior
e que facilitem a divisão dos lotes, que transformem a terras
inexploradas em pequenas propriedades, serão um esforço
que redundará em larga messe de benefícios para os desocu-
pados de hoje e para o Brasil de amanhã.

(Do Jornal do Brasil)

o sr. Matsuda ter recebido a no-
ticia atravez do radio, já em via-
gem, ficando todos os passageiros
desolados com os danos consi-
deraveis soffridos pelas cidades
japonezas.

Depois da indispensavel dema-
ra em nossos portos o "Santos
Maru" seguiu viagem para os
portos platinos.

NOTAS

Os marquezes de
Tokugawa em
S. Paulo

De passagem para o Canadá,
detiveram-se por alguns dias em
São Paulos, os marquezes de To-
kugawa, tendo sido hospedes of-
ficiais do Estado.

Sabbado ss. excias visitaram a
propriedade agricola Tozan, em
Campinas, de onde voltaram en-
cantados.

Domingo foi lhes oferecido um
lauto banquete, pela colonia japonesa
desta capital, no Club Ja-
ponês.

Segunda-feira os nobres japo-
nezes seguiram para Santos de
onde prosseguiram viagem, levan-
do gratas recordações do Brasil.

DR. Y. KIKUCHI
MEDICO

REGISTRO — IGUAPE

Exposição de pintura

Yazaki

A exposição de pintura do
Chioji Yazaki e de sua filha, se-
nhorita Tori Yazaki, organizada
com o concurso do consul do Ja-
pão em São Paulo, encerrou-se
sabbado passado.

As grandes qualidades dos artis-
ticos niponicos foram dignamente
apreciadas pela culta socieda-
de São Paulo que não lhes rega-
tearam a sua admiração. Prova-o
a grande quantidade de quadros
adquiridos.

Contos Japonezes

A historia que lides ler dá-nos
um bello exemplo de perseveran-
ça e de dedicação que devemos
dispensar ao estudo e ao tra-
balho.

Passou-se ha muitos séculos
que o correr dos annos esqueceu
mas que ficou contada por Kojiki
a bíblia por excellencia dos xin-
toístas.

No lendario imperio do Sol
Nascente, havia um jovem estu-
diioso que perdera o paes, quan-
do era muito criança e por isso,
sua mãe, uma honesta viuva, lu-
tava com serias dificuldades para
completar a educação do estu-
dioso filho. Não possuia na arca
nenhum yen para adquirir tinta,
pinceis e papel para o mesmo, o
qual com isto ficou seriamente
contrariado.

Tanami, o jovem estudioso, apesar desse serio impecilho não desanimava, e como vivia perto da costa, descendo á praia, improvisou-a de papel e assim com um ramo verde de cerejeira, pouse, nella escrevendo, resolver os problemas que teria de fazel-o no papel.

Este pequeno conto mostra-nos que havendo uma força de vontade verdadeira tudo se consegue
pois com muita razão diz o nřio popular: *nada é impossível!*